

## 平成26年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

### 1 研究開発課題

通信制課程に在籍する発達障害等による困難のある生徒の自立と社会参加を図るための新たな指導領域としての自立活動の導入、及び他校に在籍する生徒の受講を可能とする通級による指導に類した実践に関する研究開発

### 2 研究の概要

通信制課程には発達障害等による困難のある生徒が多く在籍しており、教員の中にはその対応に悩んでいる者もいる。また、発達障害等に起因する不適応により他校から通信制課程に転編入する生徒も少なくない。こうしたことから、通信制課程における支援体制の強化及び各高等学校の支援の充実が急務である。通信制課程の特質を適切に活用した支援について研究を進める。

(1) 生徒・保護者・教員への支援を充実するため、専門家や関係機関と連携した校内支援体制を確立する。

(2) 特別な教育課程を編成するため、以下の研究を行う。

ア 通信制課程に新たな指導領域として、自立活動の内容を取り入れたソーシャルスキルトレーニング（SST）や体験活動からなる「社会とつながる力」を開設し、生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。

イ 「社会とつながる力」を他校に在籍する生徒が受講できるよう通級による指導に類する実践に関する研究を行う。

### 3 研究の目的と仮説等

#### (1) 研究開始時の状況と研究の目的

##### ア 現状

- ・ 通信制課程には発達障害等による困難のある生徒が多く在籍している。
- ・ 発達障害等に起因する不適応により他校から通信制課程に転編入する生徒も少なくない。
- ・ 特別支援教育に関する知識・経験の少ない通信制課程の教員の中には対応に悩む場面も多い。

##### イ 研究目的

- ・ 通信制課程に在籍する該当生徒がコミュニケーション能力、対人関係構築力などの社会生活上必要なスキルを習得するための指導領域「社会とつながる力」を開設し、自立活動に類する取組を高校で行う場合の問題点等を洗い出し、生徒への効果について検証する。
- ・ 他校に在籍する該当生徒が「社会とつながる力」を受講できる仕組みを作る上での問題点を掘り起し、効果的な方法を探る。
- ・ 専門家や関係機関との連携や高い専門性を有する教員の配置による校内支援体制（組織）の在り方や活用方法を探り、生徒・保護者・教員にとって有用な組織づくりについて研究する。

## (2) 研究仮説

- ア 通信制課程に在籍する該当生徒がコミュニケーション能力、対人関係構築力などの社会生活上必要なスキルを習得するための指導領域「社会とつながる力」を開設する。
- イ 他校に在籍する該当生徒が「社会とつながる力」を受講できる仕組みをつくり、自尊感情や集団から離れて別の活動を行うことへの心理的な抵抗感に配慮した通級による指導に類する実践を行う。
- ウ 専門家や関係機関との連携や高い専門性を有する教員の配置により、生徒・保護者への教育相談、教員に対する助言や研修を充実し、校内支援体制を強化する。

上記ア、イ、ウにより、通信制における発達障害等による困難のある生徒に対する体系的な指導方法が確立され、通級のシステムが整備されることが期待される。

## (3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
自立活動の内容を取り入れた「社会とつながる力」を開設する。	SSTや体験活動からなる講座を通して、学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。	前期 28 時間 後期 32 時間 (前期 1 日 4 時間×7 回) (後期 1 日 4 時間×8 回)
他校に在籍する生徒に対し通級による指導に類する実践を行う。	同上	同上

## (4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

- ア 生徒情報の共有  
生徒の情報を共有し、面接指導(スクーリング)時等で活用可能とする。
- イ 共有された情報をもとにした個別指導  
作成された個別の指導計画に基づき、各教科等において指導を行う。

## (5) 研究成果の評価方法

- ア 「社会とつながる力」が発達障害等による困難のある生徒にとって、困難の改善・克服の程度や自己肯定感の醸成等に資する内容であるかについて、当該生徒・保護者・在籍校の教員・指導者等にアンケート調査を実施する。
- イ 通信制課程における他校からの通級の受入れ体制、他校から通信制課程への送り出す体制について、関係校から聴取し検証する。
- ウ 専門家や関係機関からなる運営指導委員会を設置し、生徒の社会生活や企業就労に向けた適応力を高める観点からの内容の検討や、通信制課程を活用した通級による指導に類する実践の成果と課題を検証する。

## 4 研究の経過等

### (1) 教育課程の内容

- ア 新たな指導領域として、自立活動の内容を取り入れたソーシャルスキルトレーニング

グや体験活動からなる「社会とつながる力」をスクーリング実施日に開設し、生徒の学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。

イ ソーシャルスキルトレーニング及び体験活動は、外部講師と本校教諭によるチームティーチング形式で実施する。

ウ 参加生徒は、予め講座受講における到達目標を定め、絶対評価による評価を行う。

エ 講座は本校及び他校の生徒を対象とする。

## (2) 全課程の修了認定の要件

ア 必履修科目の履修及び74単位の科目修得

イ 卒業レポート(総合学習)の履修

ウ 特別活動30時間の参加認定

## (3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<p>ア 専門家や関係機関との連携による校内支援体制の構築</p> <p>イ 校内研修等による専門性向上及び専門家や関係機関による教員への支援</p> <p>ウ 諸検査等を活用した実態把握の実施、個別の教育支援計画・指導計画の作成準備</p> <p>エ 実態把握を踏まえた自立活動の内容検討及び教育課程への位置付け</p> <p>オ 「社会とつながる力」の試行的実施</p> <p>カ 他校生徒が「社会とつながる力」を通級による指導として受講可能な仕組の構築</p>
第2年次	<p>ア 専門家や関係機関との連携による生徒、保護者及び教員への支援</p> <p>イ 実態把握を踏まえた個別の教育支援計画・指導計画の作成</p> <p>ウ 試行結果を踏まえた「社会とつながる力」の運営</p> <p>エ 「社会とつながる力」の評価及び単位認定の基準作成</p> <p>オ 県内各高等学校との通級による指導（他校通級）における連携</p> <p>カ 年度途中に希望者が受講できるカリキュラムの検討</p>
第3年次	<p>ア 通信制課程の特色及び在籍生徒の特徴に対応した校内支援体制の確立</p> <p>イ 「社会とつながる力」の運営（内容の改善及び諸課題の修正）</p> <p>ウ 県教育委員会と連携した通級による指導（他校通級）の普及</p> <p>エ 自立活動、通級による指導等に係る教育課程上の諸課題の解決</p>

## (4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<p>ア 校内支援体制の構築等についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握の分析結果の考察（運営指導委員会、教員／会議／8月）</li> <li>・校内組織の活用及び外部との連携の成果と課題（教員／アンケート／11月）</li> <li>・校内研修の成果、教員支援の要望（教員／アンケート／11月）</li> </ul> <p>イ 「社会とつながる力」についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な内容、回数、人数等を検証（運営指導委員会、教員／会議／11月）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の参観（運営指導委員会、教員、保護者等／聞取り等／随時）</li> <li>・感想、意見の聴取（受講生徒／面談、アンケート／11月）</li> <li>・受講生徒の困難の改善状況等（受講生徒、保護者、教員／アンケート／11月）</li> </ul> ウ 特別な教育課程の設定についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動、通級による指導の位置付けを検証（運営指導委員会等／会議／10月）</li> </ul>
第2年次	ア 校内支援体制の確立等についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援による改善状況の確認（運営指導委員会、教員／事例検討会／11月）</li> <li>・校内組織の活用及び外部との連携の成果と課題（教員／アンケート／11月）</li> </ul> イ 「社会とつながる力」についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の参観（運営指導委員会、教員、保護者等／聞取り等／随時）</li> <li>・運営の改善点（運営指導委員会、教員、保護者等／聞取り等／11月）</li> <li>・感想、意見の聴取（受講生徒／面談、アンケート／11月）</li> <li>・受講生徒の困難の改善状況等（受講生徒、保護者、教員／アンケート／11月）</li> </ul> ウ 特別な教育課程の設定についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動、通級による指導の位置付けを検証（運営指導委員会／会議／10月）</li> <li>・通級による指導（他校通級）の成果と課題（県内高等学校／アンケート／11月）</li> </ul>
第3年次	ア 校内支援体制の確立等についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制課程にふさわしい校内支援体制の検証（教員／アンケート／11月）</li> </ul> イ 「社会とつながる力」についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容の体系化、シラバス作成（運営指導委員会／教員等／会議／11月）</li> <li>・受講生徒の困難の改善状況等のまとめ（受講生徒、保護者、教員／アンケート／11月）</li> </ul> ウ 特別な教育課程設定についての評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動、通級による指導の位置付けを検証（運営指導委員会／会議／10月）</li> <li>・通級による指導（他校通級）の成果と課題（県内高等学校／アンケート／11月）</li> </ul>

## 5 研究開発の成果

### (1) 実施による効果

「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」のねらいは、自立活動の内容のうち、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「コミュニケーション」の区分を特に意識しながら開講した。

他校通級として参加した受講生徒の多くは、新たな環境における上記内容を意識した指導の結果、自己肯定感を高め、心理的な安定が得られたように見受けられる。自校では思うように友人関係を形成できなかったが、受講生徒同士で良好な友人関係が形成され、講座参加を心待ちにする様子も見受けられた。受講生徒同士との良好な友人関係を構築できたことによって「人間関係の形成」、「コミュニケーション」の領域に関しても一定の向上は見られたと考えられる。他校通級として参加した受講生徒が、この講座の活動によって得られたスキル等を自校に戻って実践することについても意識して指導したものの、生徒の様子からは、そのような学びの継続は十分であるとは言い難いこと

も察知された。

自校通級として参加した静岡中央高等学校（通信制の課程）の生徒に関しては、スクーリング実施日に開講するため面接指導を受けることに制限が生じる等のデメリットがあるためか、継続的参加が難しい様子も伺われたが、生徒自身や保護者から「明るくなった」、「積極的に物事に取り組むようになった」等の前向きな評価を得ており、一部ではあるが、講座の受講を通信制の課程本来の面接指導やテストよりも優先したいとの意見もあった。

後期講座を受講した生徒を対象に実施したアンケートの集計結果の概要は、下記のとおりである。

- ・ 他校通級の受講生徒を対象に「この講座で学んだ内容などについて、自分の高校で学びを継続できましたか」という質問をしたところ、67%の受講生徒が「よく継続できた」、「継続できた」と回答している。
- ・ 「ソーシャルスキルトレーニング(午前の活動)で取り組んだことが、家庭生活や学校生活など実際の場面で役に立ったことがありますか」という質問をしたところ、68%の受講生徒が「役立つことがあった」、「役立つことが少しあった」と回答している。
- ・ 「体験活動を通して達成感や充実感が得られましたか」という質問をしたところ、89%の受講生徒が「得られた」、「少し得られた」と回答している。
- ・ 「家庭での過ごし方や家族との接し方であなた自身に何か変わったことがありましたか」という質問をしたところ、47%の受講生徒が「変わった」、「少し変わった」と回答している。
- ・ 「コミュニケーションスキル講座に参加したことによって、学校での過ごし方や他の生徒や先生との接し方であなた自身に何か変わったことはありましたか」という質問をしたところ、47%の受講生徒が「変わった」、「少し変わった」と回答している。
- ・ 講座全体の満足度について質問したところ、95%の受講生徒が「満足している」、「まあまあ満足している」と回答している。

保護者からも、「講座受講をきっかけに、生徒が日常を明るく過ごし、行動が前向きになった」という指摘が多かった。

## (2) 実施上の問題点と今後の課題

下記の問題点が課題として挙げられている。

### ア 特別な支援を必要とする生徒をピックアップする方法

特に通信制の課程においては、生徒を特定し保護者を含む面談によって講座受講に導くことに限界も生じている。

### イ 一斉指導における個別支援について

社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」は一斉指導を行うことを前提に開講している。一斉指導において、個別の指導計画に基づいた個別支援をどのように円滑に実施するかは今後の課題であると考ええる。

### ウ 教材開発について

生徒一人一人による学習の理解の深さと理解の時間の差異を考慮し、一斉指導での使用に耐え得る教材の開発が課題である。

### エ 学びの継続について

講座を開講している静岡中央高校と他校通級の生徒が在籍する高等学校との連携が不十分であるという指摘がある。「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講

座)」を受講している他校生徒については、自校に戻ってからの学びの継続が十分に行われているとは言い難いと思われることから、今後、他校通級における自校での学びの継続を充実させる方法についても研究していきたい。

オ 出席状況について

他校通級の生徒と比較して自校通級の生徒の出席率は低いことがわかった。自校通級の生徒に関して、スクーリング時の面接指導やテスト出席に支障が生じる等の要因が推察されるが、今後も引き続き検討すると同時に改善策を模索したい。

カ 校内支援組織について

特別支援学校は、特別支援教育に関する知識・経験の豊富な教員で構成されているので、生徒への支援・指導で困難があっても周囲の教員から助言を受けることが可能であるが、高等学校では、特別支援教育に関する知識・経験の豊富な教員が少ないのが実情である。高等学校において、教員が生徒への支援・指導で困難に遭遇した場合の相談体制（バックアップ体制）の構築は大きな課題であり、精神科医や臨床心理士等専門家や、特別支援教育等の経験を有する者等は、高等学校における相談支援の体制の要になると思われる。

今後、高等学校の教員をバックアップする組織構築についても研究していきたい。